

神奈川県営水道のはじまり

湘南地方は早くから自然的、社会的条件に恵まれ住宅地、観光地、保養地として発展し、これに伴い水需要も増加しました。この地方には民間会社経営の水道があるものの、多くは井戸水を飲用しており、水質不良や水量不足で困窮している状態で、上水道布設の必要性が叫ばれていました。

本来上水道は、市町村経営が基本ですが、水源の開発、財政上の困難により、地元市町村から県営による上水道事業実施の要望がありました。

そこで、県は湘南地方ですでに水道を布設し営業をしていた、湘南水道株式会社の施設を買収するとともに、昭和8年4月1日、新規水源を相模川下流の寒川地区に求め、湘南地方の1市9町（平塚市、藤沢町、茅ヶ崎町、鎌倉町、腰越町、逗子町、葉山町、大磯町、浦賀町及び片瀬町）を給水区域とする我が国最初の県営広域水道として、神奈川県営水道を創設しました。

水道記念碑について

水道記念館の南側、旧寒川浄水場の門を出たところに、高さ4mあまりの石碑があります。

この記念碑は、我が国初の県営広域水道事業の竣工を記念して、県営水道期成同盟会によって昭和11年に建てられたもので、当時の人々の県営水道に懸ける決意、水道管布設に当たったの努力、また、完成した県営水道に対する誇りが感じられます。

〔碑文の抜粋（現代文化したものです。）〕

水道布設の議論は、はやくから官民の間で提唱されており、県は芦ノ湖の利用調査を遂げ、あるいは横浜市と共同の計画を講じ、その他各種の立案を試みましたが、いずれも実現するには至りませんでした。

県は昭和6年についに給水区域を平塚市他9ヶ町とし、別に既設の横須賀市水道に対し、上水供給の目的をもって水源を相模川下流の伏流水に求め、ポンプでの送水による最も経済的水道布設の案を定め、通常県会の議決を経て8年3月に主務省の認許を得ました。

5月に水源地寒川村において起工式を挙げ、それ以来、日夜の工事を監督し10年8月全線の通水を見て、本年4月に工事を完成しました。

工費は実に555万円（ ）で、東は送水管延長4万1千6百メートル、西はその延長9千8百余メートルに達します。おそらくは県営水道はわが国水道史上かつて類例なく、全くこれをもって先駆けとなしたのです。

かえりみますとこの事業は本県の宿年の懸案にして調査開始以来、年を経ること13年、その間に幾多の波瀾曲折を経ましたけれども、所期の目的を達成することを得ましたことは、まことに本県の誇りとするに足り、ここにその沿革と概要を石に刻み込み永く子孫に伝えます。（昭和11年当時の555万円は、平成24年の約36億円に相当します。（創設時（昭和8年）の給水人口は4,015人で、施設の計画給水人口は347,300人でした。））



『神奈川県営水道施設群(記念館他)』が、土木学会選奨土木遺産に認定されました。



神奈川県営水道は、昭和8年4月に我が国初の県営広域水道として、湘南地域の1市9町を給水区域としてスタートし、平成25年4月に80周年を迎えました。

このたび、県営水道創設期に建設された水道記念館（旧送水ポンプ所）や配水池の県営水道施設群が、「土木学会選奨土木遺産」に認定されました。



昭和10年 工事中の寒川浄水場



水道記念館（旧送水ポンプ所）

土木学会選奨土木遺産とは

社会へのアピール、土木技術者へのアピール、まちづくりへの活用などを促すことを目的に、幕末から昭和20年にかけて完成した土木関連建造物の中から、技術的・デザイン的にすぐれたものや、由来やエピソードが豊富なものを対象として、公益社団法人土木学会が認定している賞です。

県内では、平成12年に「猿島要塞」（横須賀市）が認定されてから、「小倉橋」（相模原市）、二ヶ領用水（川崎市）など、これまでに10施設が認定されています。

認定された施設

『神奈川県営水道施設群（記念館他）』

水道記念館（旧送水ポンプ所）、大磯配水池（現大磯低区配水池）、茅ヶ崎配水池、藤沢配水池、鎌倉配水池（現佐助配水池）、逗子配水池の6施設

認定の理由

神奈川県営水道施設群は、湘南地域1市9町に創設され、現在は12市6町に拡大した我が国初の県営広域水道の歴史を永く県民に伝える貴重な土木遺産であるため。

茅ヶ崎配水池

(茅ヶ崎市甘沼字中村)
茅ヶ崎町内一円に配水(当時)
池は鉄筋コンクリート造
長さ12m 幅12m 深さ4m
容積567m³(現在5,184m³)
昭和11年4月竣工
水位標高50m~46m



じゅすいそうわや
(写真は受水槽上家)

神奈川県営水道施設群(記念館他)

神奈川県営水道施設群は、湘南地域1市9町に創設され、現在は12市6町に拡大した我が国初の県営水道の歴史を永く県民に伝える貴重な土木遺産として、「土木学会選奨土木遺産」に認定されました。

水道記念館(旧送水ポンプ所)は神奈川県庁本庁舎等で使用されているスクラッチタイル貼りの外壁で、昭和初期の官庁建築の特徴が保たれています。また、各配水池は標高約50mの高台を掘削して設けられたもので、受水槽の建物には、県営水道創設当時の人々の思いを刻した扁額(へんがく)が埋め込まれています。

藤沢配水池

(藤沢市藤沢4丁目)
藤沢町内一円に配水(当時)
池は鉄筋コンクリート造
長さ24m 幅16m 深さ4m
容積1,502m³(現在1,536m³)
昭和11年4月竣工
水位標高49m~45m



じゅすいそうわや
(写真は受水槽上家)

大磯(低区)配水池

(中郡大磯町大磯字前谷原)
大磯町内一円に配水(当時)
池は鉄筋コンクリート造
長さ24m 幅24m 深さ4m
容積2,248m³(現在7,424m³)
昭和11年4月竣工
水位標高50m~46m



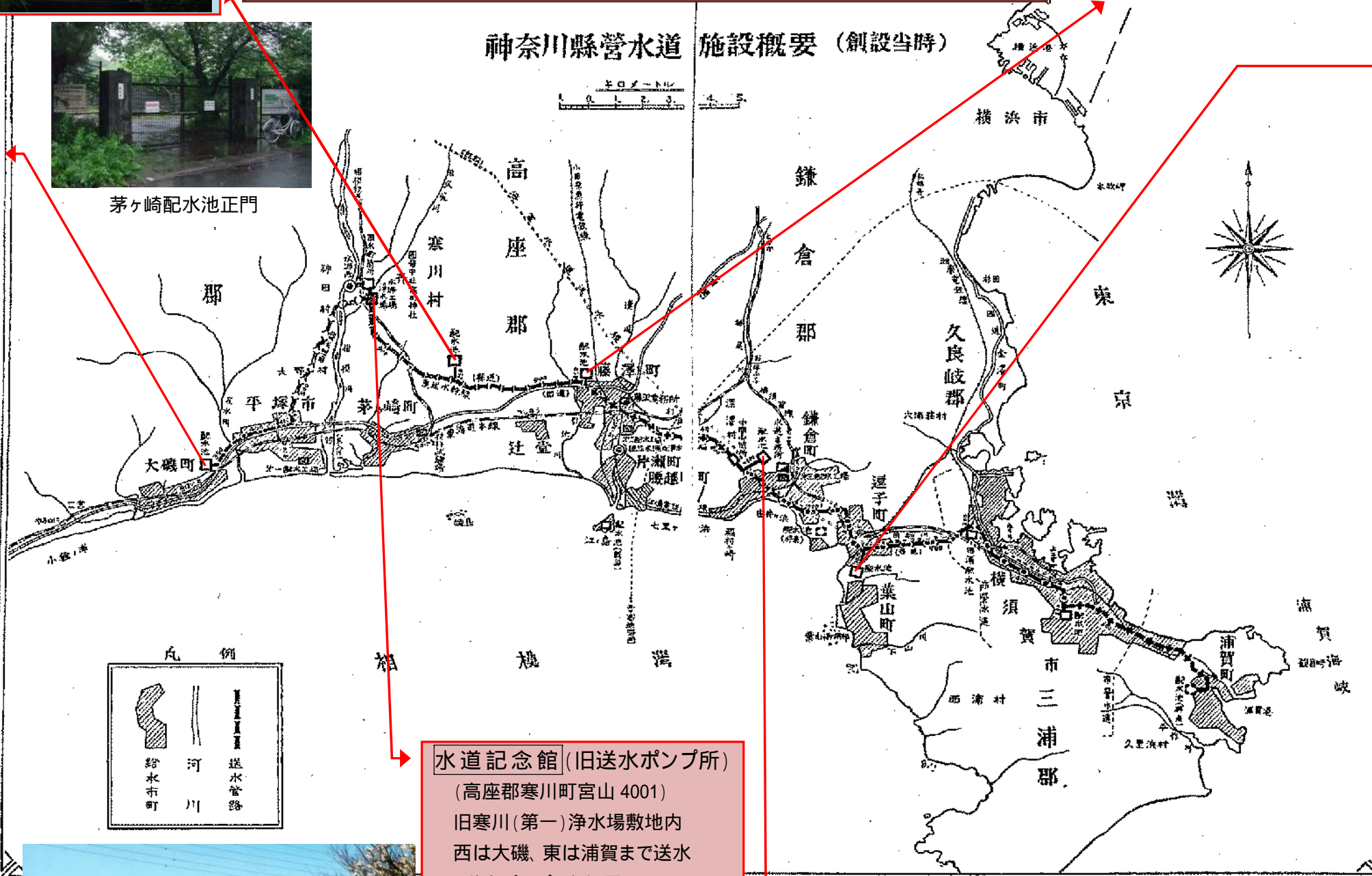
丸い換気口の真ん中には、神奈川県営水道の印があります。その下の扁額には「滾滾不盡」(水が盛んに流れ、尽きないこと)と書かれています。

じゅすいせいこうわや
(写真は受水井上家)



茅ヶ崎配水池正門

神奈川県営水道 施設概要(創設当時)



水道記念館(旧送水ポンプ所)

(高座郡寒川町宮山4001)
旧寒川(第一)浄水場敷地内
西は大磯、東は浦賀まで送水
(送水ポンプ8台設置)

入口脇に当時のポンプを展示
鉄筋コンクリート造平家建
床面積416.18m²
昭和10年11月竣工

昭和59年4月、水道記念館に改装
昭和60年5月 近代水道百選に選定



水道記念館

逗子配水池

(逗子市桜山8丁目)
逗子/葉山町内一円に配水(当時)
池は鉄筋コンクリート造
長さ16m 幅16m 深さ4m
容積736m³(現在3,855m³)
昭和9年4月竣工
水位標高54m~50m



じゅすいそうわや
(写真は受水槽上家)

鎌倉(佐助)配水池 (鎌倉市佐助1丁目)

鎌倉町内一円に配水(当時)
池は鉄筋コンクリート造
長さ24m 幅24m 深さ4m 容積2,248m³
昭和11年4月竣工 (現在2,304m³)
水位標高50m~46m



じゅすいせいこうわや
(写真は受水井上家)



鎌倉(佐助)配水池